

令和5・6年度

臨床実習Ⅱの手引き

医学科5・6年次学生用

新潟大学医学部医学科

医学部医学科の教育理念

医学を通して人類の幸福に貢献する

医学部医学科が求める学生像

- ・ 良き医療人・医学者になるための強い学習意欲と科学的探求心を有する人
- ・ 協調性に富み、豊かな教養と人間性を有する人
- ・ 広い視野を有し、積極的に行動できる人

医学部医学科の教育目標

1. 豊かな人間性と高い倫理性を備え、全人的医療に貢献できる人材の育成
2. 高度の専門性を持つ医療チームの一員として貢献できる人材の育成
3. 広い視野と高い向学心を有する医学研究者・教育者となり得る人材の育成
4. 保健、医療、福祉、厚生行政に貢献できる人材の育成
5. 地域の医療に貢献するとともに、国際的に活躍できる人材の育成
6. 探求心、研究心、自ら学ぶ態度を生涯持ちつづける人材の育成

医学部医学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

医学科では、所定の年限在学し、医学科の教育理念「医学を通して人類の幸福に貢献する」に基づき定められた全科目に合格し、科学的姿勢、コミュニケーション能力、人間性、社会性などの医に求められるプロフェッショナリズムを十分に身につけた学生に学士（医学）の学位を授与する。

新潟大学医学部医学科のアウトカム

I コミュニケーション

卒業生は：

患者・家族及び医療従事者間で適切なコミュニケーションをとることができる。

1. 患者・家族、医師及び他医療職種間と良好な関係を形成し、正確な情報の収集・伝達ができる。
2. 患者・家族に傾聴、共感、支持的態度を示し、適切な診療ができる。
3. 英語を用いて患者と基本的なコミュニケーションをとることができる。

II 医学の専門的な知識

卒業生は：

以下の医学に関する知識を有し実践に
応用できる。

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 各臓器の構造と機能 | 6. 医薬品と薬理作用 |
| 2. 心理・行動 | 7. 医療機器 |
| 3. 病態生理 | 8. 医療行政 |
| 4. 診断と治療 | (予防/保健/福祉/医療) |
| 5. 疫学 | 9. 医療経済 |

III 倫理観と人間性

卒業生は：

患者・利用者の価値観や背景を理解し、個性を尊重できる。プロフェッショナルにふさわしい倫理観をもち、礼節ある態度を示すことができる。

1. 法的責任・規則を遵守できる。
2. 患者中心の視点を持ち、利他的、共感的に対応できる。
3. 多様な価値観や文化的背景を理解し患者・利用者の個性に配慮できる。
4. 患者・利用者に対して正直、誠実であり、礼儀正しく振る舞うことができる。
5. 研究・医療倫理、医療安全、守秘義務、説明責任を理解し実践できる。

IV 診療の実践

卒業生は：

基本的な診療を指導医の監督下で実践できる。

1. 基本的診療と手技ができる。
2. 診断と治療に必要な検査を選択し、データを解釈できる。
3. 適切な診断ができる。
4. 適切な治療計画が立てられる。
5. 診療記録を適切に記載し、プレゼンテーションできる。
6. チーム医療の重要性を理解し、安全な医療を実践できる。

V 保健・医療・福祉への貢献

卒業生は：

保健・医療・福祉に関する制度や業務を理解し、その改善に貢献できる。

1. 疾病の予防に貢献できる。
2. 患者への健康教育を実践できる。
3. 地域の保健指導を実践できる。
4. 検診、スクリーニングの重要性を理解し実践ができる。
5. 厚生・行政の概要を理解し役割を果たすことができる。
6. 社会福祉、保険制度を理解し実践できる。

VI 地域医療と国際性

卒業生は：

国際的な視野をもちつつ、地域の実情に合った医療を実践できる。

1. 地域の実情（伝統や風習）を踏まえた地域医療を実践できる。
2. 語学に堪能で国際的な視野をもって行動できる。
3. 国際保健に関心をよせ情報収集し、課題解決に取り組める。
4. 海外の学生と積極的に交流できる。

VII リサーチマインド

卒業生は：

基礎・臨床研究に興味をもち、自ら問題を発見し、論理的思考で問題解決をはかることができる。

1. 基礎・臨床研究に興味をもち、研究に取り組むことができる。
2. 自ら未知・未解決な問題を発見し、論理的思考により研究を推進し、問題解決できる。
3. 研究についてプレゼンテーションができ、新しい知見を発信できる。

VIII 自己研鑽・生涯学習

卒業生は：

生涯にわたり自ら学ぶ態度をもち、自己研鑽を続けることができる。

1. 自己主導型学習により課題を設定し、その解決のために正しく情報を検索し、課題解決できる。
2. 自己評価と振り返りを通して生涯学習を継続できる。
3. 現場での実践を通して自己の向上を図ることができる。
4. 探究心、向学心、向上心をもち続けられる。

臨床実習Ⅱを始めるにあたって

新潟大学医学部長 染矢 俊幸

いよいよ臨床実習Ⅱが始まります。臨床実習Ⅰを修了した皆さんは、次のステップであるこの実習で、対象領域を絞り、より深く学びます。実習期間は1ターム4週間、大学病院や関連病院で計24週の実習になります。

臨床実習Ⅱは診療チームの一員として参加する診療参加型の実習です。主体的に取り組み、より多くのことを吸収して、医師になるために必要な実践的な経験をたくさん積んでください。一方で公的化された共用試験によって臨床実習生（医学）という認定を得てはいるものの、皆さんはまだ、あくまでも医師の資格がない医学生です。医師の指導の下で医行為を行う立場であることを常に忘れず、指導医の指示や病院ルールを厳守し、礼節ある態度や言葉遣い、身だしなみなど、社会人としてのマナーにも留意するよう心掛けてください。

また、個人情報保護に関しては必ず遵守してください。実習中に知り得た個人情報を漏洩することは、悪意がなくても厳しく罰せられる行為です。同級生との何気ない会話であっても十分注意して、場をわきまえて行動してください。そして何よりも、実習にご協力いただく患者さん、指導医、スタッフの皆さんへ感謝の気持ちを忘れず、誠心誠意対応するよう努めてほしいと思います。

この実習では、特定の患者さんとその病気により長く関わることになります。その中で患者さんの複雑な気持ちや悩みに触れることも少なくないでしょう。患者さんの心に寄り添い、ご本人やご家族の話によく耳を傾けて、一緒に考える姿勢が重要です。心と身体を包括的に診て、その根本の病を治す方法を探り、実践する「全人的医療」の視点を持って患者さんと向き合えるようになってください。

臨床実習Ⅱを終えて卒業試験を乗り越えれば、いよいよ卒業です。国家試験の先には医師としてのスタートが待っています。臨床実習Ⅱは、皆さんが医師になるための鍛錬の場です。これまで学んできた多くのことが臨床現場でどう活きるのか、自分自身の学びの集大成として、実りある実習になるように真摯に取り組んでください。

コース「臨床実習Ⅱ」(必修)

学習の条件：

臨床実習Ⅰ（25コース、42週間）と症候学講義を終了した者。

※臨床実習期間：令和6年1月15日（月）～7月26日（金）

曜日：月曜日～金曜日 時間：8時30分～16時20分

第1クール：令和6年1月15日（月）～2月9日（金）

第2クール：令和6年2月13日（火）～3月8日（金）

第3クール：令和6年4月1日（月）～4月26日（金）

第4クール：令和6年5月7日（火）～5月31日（金）

第5クール：令和6年6月3日（月）～6月28日（金）

第6クール：令和6年7月1日（月）～7月26日（金）

科目の概要：

翌年医師として全人的医療を実践し「医学を通して人類の幸福に貢献する」ために必要な、科学的姿勢、コミュニケーション能力、人間性、社会性などの医に求められるプロフェッショナリズムを十分に身につける。

科目のねらい：

主として、患者と接する医療現場において、患者、医師、他職種医療スタッフとのコミュニケーション能力、身体診察法、臨床推論、問題解決、治療計画、プレゼンテーションなどの基本的臨床技能と態度を修得する。

コース：

4週間を1クールとし、6クールを必修とする。

- 1群学内（循環器内科、血液内科、内分泌・代謝内科、呼吸器・感染症内科、腎・膠原病内科、消化器内科、脳神経内科、腫瘍内科、地域医療確保・地域医療課題解決支援講座 地域医療分野）を1クール
- 1群学外臨床教育協力施設を1クール
- 2群学内（消化器・乳腺内分泌外科、小児外科、心臓血管外科・呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、泌尿器科、耳鼻咽喉・頭頸部外科）を1クール
- 2群学外臨床教育協力施設を1クール
- 3群学内（皮膚科、眼科、麻酔科、救急科、放射線治療科・放射線診断科、病理部・病理診断科、小児科、産科婦人科、精神科、リハビリテーション科）を1クール
- 3群学外臨床教育協力施設を1クール

※学外実習の1つのクールにおいて、希望する場合は「総合診療コース」を選択可能。

※学内実習の1つのクールにおいて、希望する場合は「社会医学コース」を選択可能

合計 6 クール 24 週間履修するものとする。

実習施設は、本学医歯学総合病院並びに学外臨床教育協力施設とする。実習先の希望調査にもとづき、割り振りを行う。本学医歯学総合病院 3 クール、学外臨床教育協力施設 3 クールをそれぞれ交互にローテーションする。

学習の到達目標：

1. 医学科生として、下記の〔注意事項〕を遵守し、医師となる自覚を持って行動できる。
2. 適切で、患者に信頼される医療面接ができる。
3. 患者に不快感を与えず、必要な身体診察を行い、所見を説明できる。
4. 医師一般に必要な基本的臨床手技の適応、準備、手順、合併症を説明し、自ら実施できる。
5. 選択した診療科・病院の医療上の役割と医師の業務について理解を深める。
6. 実習期間中、毎日のふりかえり、経験した症候・症例を e-ポートフォリオに記載し、指導者からのフィードバックを確認できる。

〔注意事項〕

1. 社会人としての礼儀、挨拶、身だしなみ、時間厳守、協調、物品を大切に扱う、などの常識を自ら進んで遂行する。
2. 病院の職員に準じて、患者の権利の擁護、守秘義務、患者の気持ちに配慮した思いやりの心と行動に心がける。
3. 当該病院の種々の管理規定や安全のためのマニュアルを遵守し、当該スタッフの指示を守って行動する。
4. 原則として公共機関を利用し、交通事故の回避に心がける。
5. 「学研災付帯学生生活総合保険」への加入が実習の条件となるので、開始前に加入する。
6. 実習開始前に必ず健康診断を受け、異常があれば医学科入試・臨床実習係に報告相談する。

〔到達目標 2, 3, 4 の学習内容〕

4 週間 6 クール全体での目標として：

医療面接の学習には

態度・マナー、会話技術、情報収集力、信頼関係の形成、診療録の記録が含まれる。

身体診察の学習には

態度・マナー、身体診察技術（バイタルサイン、頭頸部、胸部、腹部、四肢・脊柱、神経系）、臨床推論、患者への配慮、診療録（電子カルテ）の記載が含まれる。

基本的臨床手技の学習には

採血、手洗い・清潔操作、ガウンテクニック、消毒・ガーゼ交換、皮膚縫合、採血、尿道カテーテル挿入・抜去は必須であり、更に、尿検査、血液塗抹標本検査、微生物学的検査（Gram 染色含む）、心電図検査、超音波検査はできるだけ経験する。

実習実施形態について：

1. 実習では医師に準じ、主治医（チーム）の一員として行動するなかで、医師としての在り方を学習するのが基本である。
2. 自ら希望する学習を具体的に指導担当医師に伝え、実習の場を提供されたことで、積極的な学習が可能である。
3. 多忙な指導担当医師でも、学生の熱意が伝われば必ず応えて頂けると信じて行動する。
4. レクチャー、カンファレンス、発表会などに積極的に参加するとともに、教科書、図書、インターネットなどを利用した学習にも心がける。
5. 医療面接や診察に際しては、特に礼儀、手順の説明、不安や不快感を与えない配慮、良好な人間関係の樹立に心がける。
6. 基本的臨床手技の実習は、診療現場と状況で異なるので、指導担当医師の指示をよく聞くとともに、予めよく準備や練習をして臨むことに心がける。手技とともに、患者や医療従事者への態度・マナーに注意を払う。

成績評価の方法と基準：

成績は指導医師の観察評価などにもとづき、学務委員会で判定する。

評価の対象は：臨床実習およびPost-CC OSCEで実施する

1. 欠席と遅刻の頻度とその連絡
2. 身だしなみ、礼儀、協調性など
3. 患者やスタッフへの態度・マナー
4. 面接・診察・手技の技能と態度
5. 知識と問題解決能力・伝達能力 である。

1 コースでも不合格の場合、臨床実習ⅡA（7単位）、ⅡB（15単位）は、獲得できない。

令和6年9月11日、12日に医学系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験（臨床実習後OSCE, Post-Clinical Clerkship Objective Structured Clinical Examination；Post-CC OSCE）を実施する予定である。

OSCEでは、以下の6課題を実施するので、臨床実習2において知識、技能、態度を十分に修得しておくように。

1. 医療面接＋身体診察＋臨床推論＋プレゼンテーション（16分）3課題
2. 基本的臨床手技：採血、縫合、尿道カテーテル挿入のうち1課題
3. カルテ記載 1課題
4. 患者に対する病状説明、健康教育など：禁煙指導、健診異常における健康教育、退院時の指導などのうち1課題

平成29年度から卒業時に必要な知識、技能、態度を評価するPost-CC OSCEの合格を臨床実習ⅡBの修了要件としている。

新潟大学医学部臨床実習Ⅱにおいて、 医師養成の観点から医学生が実施する医行為の例示

厚生労働省は2018年7月31日に「医学部の臨床実習において実施可能な医行為の研究報告書」を公表した。臨床実習において医学生に医行為を行わせるための条件として

- ① 侵襲性のそれほど高くない一定のものに限られること※¹
- ② 医学部教育の一環として一定の条件を満たす指導医によるきめ細かな指導・監視の下に医行為を行わせること※²
- ③ 臨床実習を行わせるに当たって事前に医学生の評価を行うこと※³
- ④ 医学生である旨の明確な紹介及び患者等の同意を得て実施すること※⁴

をあげた。

次ページに①必須項目：医師養成の観点から臨床実習中に実施が開始されるべき医行為と

②推奨項目：医師養成の観点から臨床実習中に実施が開始されることが望ましい医行為を示す。

(注釈)

- ※1 「指導・監督の下」とは、指導医は医学生が医行為を実施していることを認識し、かつ、必要があれば、当該医行為を直ちに制止し、あるいはこれに介入できる状況であること
- ※2 少なくとも公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構（CATO）が行う CBT における全国一律の合格基準に達する必要がある
- ※3 患者等の同意については以下の取り扱いとすること
- 1) 医学生が当該患者の診療活動に参加するないし見学・介助することについて、臨床実習で医学生が行う医行為の範囲を示した上で、患者から「包括同意」を文書または口頭で得ること
 - 2) 包括同意の取り方については入院時等の説明文書や、医師、看護師等による口頭での説明等様々な方法が可能であるが、口頭で同意を得た場合には、その旨を診療録に記載すること。また「包括同意」を得た後でも、患者はこれを撤回する権利がある旨も含めて説明すること
 - 3) 別添の例示にないものについて、別添に例示されたものと同等の侵襲度・難易度のものと各大学・実習施設で考えるものを、教育上の必要性を考慮して、臨床実習で取扱う医行為の範囲に含める場合には、包括同意を取る際に、個別に説明を行う必要があること
 - 4) 意識レベルの低い患者に対する診療時や、救急診療等、事前の同意取得が困難な場合は、事後、速やかに同意を取得することが望ましいこと

分類	①必須項目 医師養成の観点から臨床実習中に <u>実施が開始されるべき</u> 医行為	②推奨項目 医師養成の観点から臨床実習中に <u>実施が開始されることが望ましい</u> 医行為
診察	診察記録記載（診療録作成）※ ¹ 医療面接 バイタルサインチェック 診察法（全身・各臓器） 耳鏡・鼻鏡 眼底鏡 基本的な婦人科診察 乳房診察 直腸診察 前立腺診察 高齢者の診察（ADL 評価、高齢者総合機能評価）	患者・家族への病状の説明 分娩介助 直腸鏡・肛門鏡
一般手技	皮膚消毒 外用薬の貼付・塗布 気道内吸引※ ² ネブライザー 静脈採血 末梢静脈確保※ ² 胃管挿入※ ² 尿道カテーテル挿入・抜去※ ² 注射（皮下・皮内・筋肉・静脈内） 予防接種	ギプス巻き 小児からの採血 カニューレ交換 浣腸
外科手技	清潔操作 手指消毒（手術前の手洗い） ガウンテクニック 皮膚縫合 消毒・ガーゼ交換 抜糸 止血処置 手術助手	膿瘍切開、排膿 嚢胞・膿瘍穿刺（体表） 創傷処置 熱傷処置

分類	①必須項目 医師養成の観点から臨床実習中に <u>実施</u> が開始されるべき医行為	②推奨項目 医師養成の観点から臨床実習中に <u>実施が</u> 開始されることが望ましい医行為
検査手技	尿検査 血液塗抹標本の作成と観察 微生物学的検査 (Gram 染色含む) 妊娠反応検査 超音波検査 (心血管) 超音波検査 (腹部) 心電図検査 経皮的酸素飽和度モニタリング 病原体抗原の迅速検査 簡易血糖測定	血液型判定 交差適合試験 アレルギー検査 (塗布) 発達テスト、知能テスト、心理テスト
救命※ ³	一次救命処置 気道確保 胸骨圧迫 バッグバルブマスクによる換気 AED	電気ショック 気管挿管 固定など整形外科的保存療法
治療※ ⁴	処方薬 (内服薬、注射、点滴など) のオーダー 食事指示 安静度指示 定型的な術前・術後管理の指示 酸素投与量の調整※ ⁵ 診療計画の作成	健康教育

※1 診療参加型臨床実習実施ガイドライン「学生による診療録記載と文章作成について」を参考に記載する

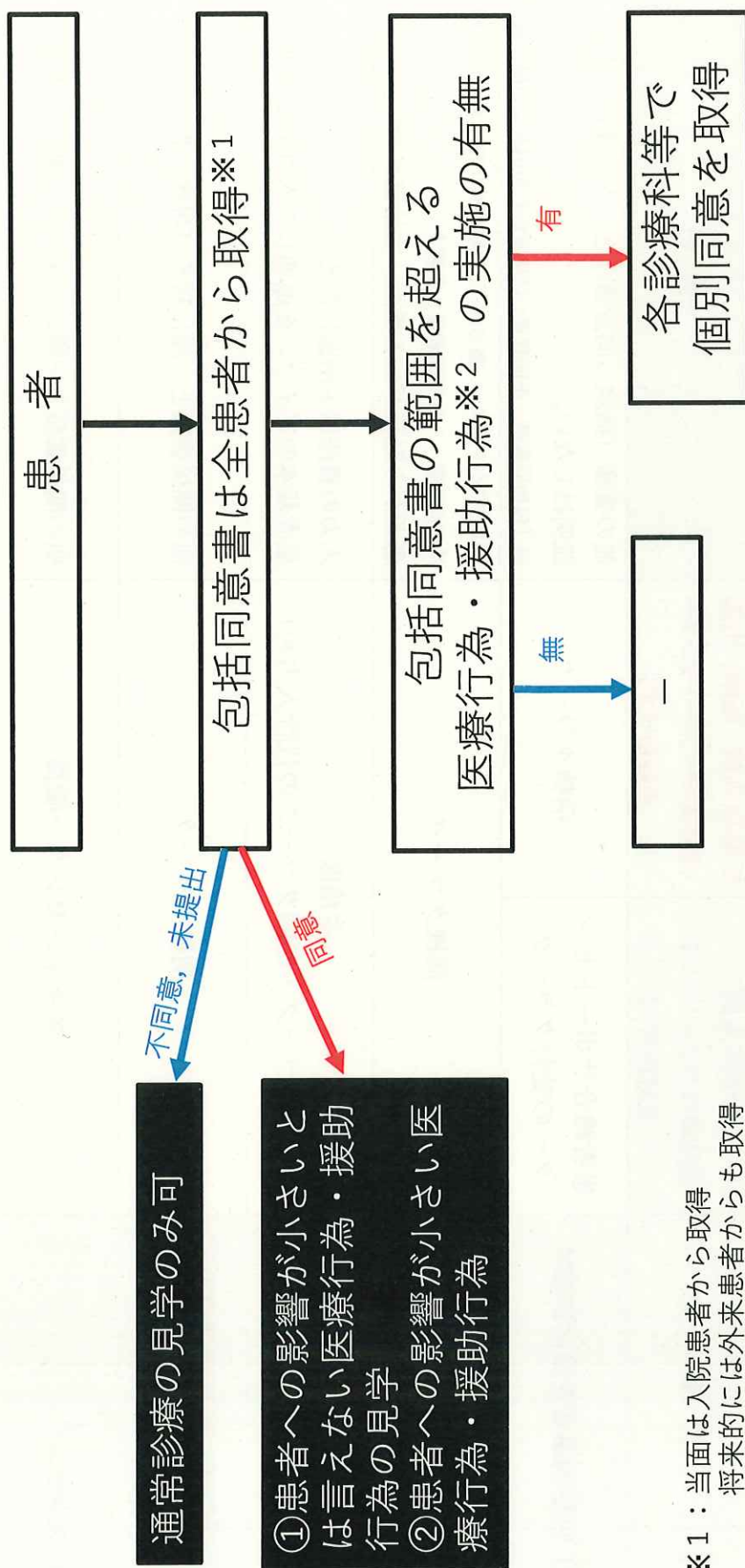
※2 特にシミュレータによる修得ののちに行うべき

※3 実施機会がない場合には、シミュレータによる修得も可である

※4 指導医等の確認後に実行される必要がある

※5 酸素投与を実施している患者が対象

学生の臨床実習の実施のフロー



※1：当面は入院患者から取得
将来的には外来患者からも取得

※2：個別同意が必要な医療行為か否かの判断
は、報告書、指針を参考に各診療科が行う
援助行為は原則として包括同意書で十分で
あると考えられるが、リスクや羞恥心など
を考慮して、必要に応じて各部署で個別同
意を取得する

包括同意書の受け渡し及び電子カルテへの入力の流れ(入院)

作業	A 予定入院 (患者総合サポートセンター を経由する)	B 緊急入院, 転院, 出産 (患者総合サポートセンター を経由せず)	備考
① 包括同意書を患者に渡す	患者総合サポートセンターの受付クラーク	病棟クラーク	他の書類 (病院の同意書など) と一緒に渡す。 説明はしない。 ※「包括同意書・不同意書」は患者から申出がない限り渡さない
② 包括同意書を回収する	病棟クラーク		回収するのみ。 ※万が一, 患者から申出があった場合は「包括不同意書・一部不同意書」を渡す 患者から疑義がある場合, 主治医が対応。
③ 電子カルテに同意・不同意を入力	主治医 (病棟クラーク・医師クラークの代行入力可)		入力の責任は主治医にある。 患者基本のアイコンを追加して入力する方向。
④ 退院時に包括同意書のスキャンセンターへ	病棟クラーク		他の関係書類と一緒に送る (現状どおり)。
⑤ スキャン	スキャンセンター職員		他の関係書類と一緒にスキャン (現状どおり)。

※ 当初は入院患者を対象とし, いずれ外来患者にも包括同意書の取得を広げる

※ 繰り返し入院する場合は, 入院の都度取得する

学生実習等へのご協力のお願い(説明文書)

新潟大学医歯学総合病院 病院長

当院は、特定機能病院および大学附属病院であり、質の高い医療人を育成する使命を持って診療を行っております。その使命を皆様にも十分ご理解いただき、臨床実習にご協力をお願いします。

臨床実習の実施においては、皆様に不利益がないように十分な指導体制を組んで教育を行っています。その中で、学生は指導医、指導教員、担当医、指導者の指導、監督のもとで教育のために医療行為・援助行為に参加することがあります。具体的には、学生が患者さんへの影響が小さい医療行為(問診、聴診、触診、血圧測定、採血など)・援助行為を行い、また医師やスタッフの医療行為・援助行為を見学し記録を記載します。

なお、侵襲性の高い医療行為(手術、大きな処置など)を学生が実施または補助する場合は、別に説明同意を取得します。

上記の内容をご理解いただいた上で、ご承諾いただける場合には、別紙の同意書に署名をお願いいたします。

なお、上記内容の詳細については裏面に記載しましたので、ご参照下さい。

【背景】

本院は高度先進医療を提供する特定機能病院であるとともに、専門的知識や技能を持つ医療スタッフを育成するための教育病院という役割も担っています。そのため、医学生、歯学生、薬学生、看護学生、コメディカルスタッフ（診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、臨床工学技師、他）を目指す学生に加えて、院外から受け入れた医歯学系学生の臨床実習を積極的に行っています。

この臨床実習は、将来これらの学生が医師、歯科医師、薬剤師、看護師、コメディカルスタッフになって、患者さんに質の高い安全・安心な診療を提供していく上で必要不可欠です。従って、問診、回診など、通常の診察の様子をこれらの学生が見学をさせていただきますので、ご了承下さい。

【本説明同意書で同意をいただきたい事項】

学生が患者さんにお話をうかがったり、医療行為・援助行為の様子を見学させていただいたり、経験を積んだ医師、薬剤師、看護師、コメディカルスタッフの指導監督のもとで、患者さんへの影響が少ない医療行為（医学生、歯学生の場合は共用試験に合格し、医行為実施が認められた臨床実習医学生、歯学生が実施します）・援助行為をさせていただくことになります。本説明同意書で同意を得るのは以下の範囲です。同意をいただける場合は、別紙同意書にご署名をお願いします。

①学生が実施すること

患者さんへの影響が少ない医療行為（問診、聴診、血圧測定、触診、採血、その他検査など）

患者さんへの援助行為（食事、入浴、移送の補助など）

②学生が見学すること

患者さんへの影響が少ない医療行為の内、通常の診察を超えるもの

侵襲性の高い医療行為、患者さんへの影響が少ないとは言えない医療行為（手術、大きな処置など）

患者さんへの援助行為

【別途、個別に同意を得る事項（本説明同意の範囲外）】

侵襲性の高い医療行為、患者さんへの影響が少ないとは言えない医療行為（手術、大きな処置など）を学生が実施する場合は、本説明同意とは別に、個別に説明をさせていただき、同意をされた患者さんのみに実施をします。

【学生に対する指導、本院の責任】

学生に対しては、臨床実習において患者さんにご迷惑やご不快をおかけすることがないよう、前もって指導監督するスタッフから十分に教育指導いたします。十分な経験を積んだと認められた学生のみが臨床実習に参加します。また、臨床実習で知り得た患者さんの個人情報、決して第三者に漏らしません。

学生が見学、実施をする医療行為は危険の少ないものに限定した上で経験を積んだ指導医、指導教員、担当医、指導者が適切に監督をしています。学生が援助行為を見学、実施する際には経験を積んだスタッフが適切に監督をしています。しかし、万が一患者さんの健康ないしプライバシーを損なう事象が発生した場合には、本院の責任で適切に対応いたします。

*ご自分では署名できない患者さんの場合は、代理の方が患者氏名を代記し、代記した方も署名して続柄をご記入下さい（記名者に○をつけて下さい）。患者さんが判断困難な場合や未成年者の場合は、代諾者がサインし続柄をご記入下さい（代諾者に○をつけて下さい）

*万一どうしてもご同意いただけない場合は、お申し出下さい。また、いったん同意いただいても、後日いつでも撤回・変更が可能ですので、お申し出下さい。お申し出によって、患者さんが診療上の不利益を被ることはありません。

学生実習へのご協力のお願い(同意書)

本院は、学生実習の実施にあたり患者さんに説明を行っています。別紙の説明書「学生実習等へのご協力のお願い(説明文書)」の通り、学生実習で行う医療行為・援助行為の範囲、見学等について説明いたしました。説明した内容をご理解いただいた上で、学生実習へのご協力のお願いに同意されるようでしたら、下記の同意欄に署名をお願いいたします。

いったん同意されても、医療行為・援助行為の実施直前までであれば、同意を撤回できます。また、同意されない場合や、同意を撤回された場合でも、そのことで患者さんが診療上の不利益を被ることはありません。

もし、以上の説明内容にご不明な点がありましたら、医療スタッフに遠慮なくお尋ね下さい。

私(患者)は、診療を受けるにあたり、別紙の説明書「学生実習等へのご協力のお願い(説明文書)」に記載された事項について説明を受けました。説明内容を十分に理解し、学生実習への協力について同意します。

患者署名年月日【必須】: _____年____月____日

患者氏名(署名)【必須】: _____
(患者さん以外が患者氏名欄に記名した場合には、以下も必ずご記入下さい)

代諾者*・記名者**署名 _____ (続柄: _____)
(どちらかに○をつける)

同席者***署名 _____ (続柄: _____)

なんらかの理由で患者さんが署名できない場合、代わりの方が患者氏名欄に記名し、ご自分の署名と続柄も記載して下さい。

代諾者(*): 患者さんに十分な判断能力がない場合、もしくは未成年者の場合。(代諾の要件を備えた方)

記名者(**): 患者さんに判断能力はあるが、ご自身で署名ができない場合。

同席者(***) : 患者さんの他に同席者の方の署名が必要な診療行為の場合。

院内感染事故等の対応

(病院・診療科用)

新潟大学医学科 5・6 年次臨床実習において

学生が院内感染事故等に遭遇した場合のお願い

貴院にて臨床実習を受けている新潟大学医学科 5・6 年次学生に次の事項が発生した場合には、下記の如く学生を指導頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

- ① 臨床実習中の針刺し等の創傷、血液、体液付着等の事故
- ② 結核や感染症予防法対象患者との接触
- ③ 実習期間中の怪我や疾病のために実習に支障を来す恐れがある場合

以上の場合、まず貴病院の規定に基づく処置や検査を施行されるとともに、直ちに以下の内容を新潟大学医学科入試・臨床実習係 (TEL 025-227-2015、FAX 025-227-0750) まで連絡するよう学生をご指導ください。必要に応じて、指導医からのご報告もお願いします。

- ① 学生名、指導医名
- ② 事故の日時、場所、内容
- ③ 感染症についての情報
- ④ 貴病院で実施していただいた処置、検査

報告頂いた内容は直ちに学務委員会に報告され、とくに感染を受けた可能性がある場合には、貴院でのご対応を踏まえて、その後の治療や追跡検査などの対策を検討いたします。さらに必要があれば、新潟大学医歯学総合病院の専門外来に受診するように学務から学生に連絡を致します。また、実習の中断が必要な場合、学務委員が貴診療科・担当教室とともに、中断期間や復帰時期などについて相談を行います。一方、今後の事故予防策等を担当教室とともに検討させていただきますので、詳細な情報提供等、ご協力をお願い申し上げます。

以上、日常、学生指導に多大なご協力をいただいておりますところ誠に恐縮ですが、宜しくご配慮のほど、お願い申し上げます。

新潟大学医学科学務委員会

学研災付帯学生生活総合保険について

実習期間中に万一学生の事故が発生した場合は、各病院で対応していただくようお願いしておりますが、学生は入学時「学研災付帯学生生活総合保険」の保険に加入しております。

学外臨床実習中に遭遇した針刺し事故等での連絡について

新潟大学医学科 5・6 年次臨床実習Ⅱの学外実習中に、

- ① 針刺し等の創傷、血液・体液付着等の事故
 - ② 結核や感染症予防法対象者との接触
 - ③ 怪我や疾病のため実習に支障を来す恐れのある場合
- が、発生した際には、以下の如く行動してください。

- (1) 直ちに指導医に連絡し、実習先病院の規定に基づく処置や検査を受ける。
- (2) 医学科入試・臨床実習係 (TEL 025-227-2015、FAX 025-227-0750) まで
以下の内容について連絡して下さい。

- ① 学生名、指導医名
- ② 事故の日時、場所、内容
- ③ 感染性についての情報
- ④ 実習先病院での処置、検査

以上の報告に基づき、

- ① 学務委員会で必要な治療や追跡などの対策を検討します。
- ② 必要なら、感染症に応じて専門外来への受診を勧めます。
- ③ 実習の中断が必要なら、中断期間や補修などについて相談します。

上記のことは、実習学生の身を守るとともに、適正な臨床実習遂行のため大変重要ですので、すべての学生が (1) (2) の事項を必ず行うように留意して下さい。

新潟大学医学科学務委員会

令和5・6年度 臨床教育協力施設情報一覧

[illegible]

令和5・6年度 臨床教育協力施設情報一覧

①施設名称	②所在地	③病床数	④診療科目・科目数		⑤1日平均		⑦医療数 (医師・歯科 医師)	⑧施設の概要・特徴
			診療科目	科目数	外来患者数	入院患者数		
長岡赤十字病院	長岡市千代2丁目297番地1	592	内科、小児科、外科、整形外科、神経内科、脳神経外科、皮膚科、循環器内科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科、リハビリテーション科、呼吸器外科、リウマチ科、放射線科、心臓血管外科、小児外科、麻酔科、精神科、歯科、歯科口腔外科、消化器外科、病理診断科、救急科	27	1,495.0	426.6	150.6	今の日本は、世界に類を見ない少子高齢化社会を迎えています。そこで、国は社会保障費の自然増を抑えるべくさまざまな施策を行ってきています。その中で、2018年4月の診療報酬改定では在宅医療の強化、病院の機能分化を促し推進するという方針を強く打ち出されました。 地域医療支援病院であり、救命救急センターである当院は、地域から診療連携拠点病院の指定も受けている当院では、国の方針を受けこれまで以上に地域の急性期医療を担うべく病院機能の向上と他との連携強化に努めていると見做ります。 当院では、新しい治療法・手術方法、早期のリハビリで入院治療期間を短くする工夫をすると同時に、「回復期病院」と呼ばれるリハビリテーション、療養のための病床のある病院や介護施設、訪問看護ステーションなどと連携し、シームレス（縫ぎ目なし）に急性期医療から次の段階の治療、リハビリ、療養・介護へつなげるような地域での連携に努めてまいりました。今後も、地域連携を密にし、病院から遠い出された方でも手厚い適切な処置の後、速やかに次のステップに向けた適切な手配をうけて退院することが出来た」と思っている病院を目指したいと考えております。
厚生連長岡中央総合病院	新潟県長岡市西岡町2041番地	500	内科、消化器内科、呼吸器内科、腎臓内科、血液内科、循環器内科、腫瘍内科、神経内科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、腎臓外科、リウマチ科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、耳鼻咽喉科、形成外科、心臓血管外科、放射線科、放射線治療科、リハビリテーション科、麻酔科、病理診断科、救急科、歯科口腔外科	34	1,425.4	395.1	132.1	当院は、まだ医療保険制度の無かった昭和10年に、医療組合病院として出発しました。狭い敷地で構成される総合病院から出発し、順次、新しい病院です。 当時の賛同者は市民の中、黙して食糧、病を患う者、この問題を有するは、文明国の恥辱にして、我が国家理想の實現なりという信念を旗印として、困難を乗り越え、病院を開院たと記録に残されています。 この時代から80年が経ち、人口構成・疾病・医療の内容など大きく変化しましたが、当時とは別の意味で、今尚病を患う者無きがあるように思います。先人がこの病院に託した思いを、しっかりと受け継いでいける病院でありたいと考えています。 さて、現在当院は500床を有する急性期病院として地域医療に取り組みしています。34の診療科を開設し、ほぼすべての診療科目に対応できる体制をとっています。 診療所から紹介される患者さんの利便性のために病室環境を整え早くから立ち上げ、診療所との高度医療連携の共同利用も推進してきました。また、入院し、急性期を過ぎた患者さんには、シームレスに元の生活に即れるよう退院支援の人材をすべての病棟に配置しています。入院という非日常の生活から在宅へ、帰るようには急性期の医療連携へと安心して移行できるように取り組んでいます。現在、当院で働く職員は1000人を超えています。ですが当院は、このような大きな組織にも関わらず、横の繋がりがとても良い病院だと思っています。 各病棟、各診療科間の隔たりが無く、最速の良さが特徴です。病院内でのいろんな課題に対応している委員会、若くは地域から選ばれた代表者から構成され、その問題解決や医療の質の向上のため、IPW（専門職連携による実践）を心がけています。
立川総合病院	新潟県長岡市旭岡1-24	481	循環器内科、心臓血管外科、脳神経外科、神経内科、心臓血管外科、内分泌内科、腎臓内科、消化器内科、外科、呼吸器内科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、耳鼻咽喉科、形成外科、心臓血管外科、放射線科、放射線治療科、リハビリテーション科、麻酔科、病理診断科、救急科	27	991.6	350.0	94.7	立川総合病院は、立川メディカルセンターの中核となる病院です。主に急性期、慢性期の医療を担当していますが、長岡市旭岡への新築移転を機に、透析施設と健診部門も院内に入りました。旧病院、慢性期リハビリ施設連携病院、柏崎厚生病院が担当し、立川メディカルセンターとして包括的医療を展開しています。長岡市二次救急センター病院の一員として、又、地域包括ケアシステムの後方病院として地域医療に貢献しています。医師臨床研修病院（基幹型・出力型）に指定されています。看護専門学校の実習病院であるとともに、救急救急センター、救急救急センター、救急救急センターの実習を引き受けており、医療の教育に携わっています。総合病院として全27診療科が備わっています。科によっては医師が不足しているため、診療要請に十分に対応できない場合もありますが、診療要請に原則応じないことをポリシーとしており、上越地域の患者さんが上越医療圏で診療及び治療を受けることを重視しています。
県立中央病院	新潟県上越市南町205	524	内科、消化器内科、循環器内科、小児科、精神科、脳神経内科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科、心臓血管外科、放射線科、放射線治療科、リハビリテーション科、救急科	24	1,031.5	383.1	137.9	当院は明治8年病院創立から150年、平成9年に現在の南町に移転してから28年がたちました。上越地域は上越市、妙高市、糸魚川市を2次医療圏としており、人口28万人が対象です。地域内の病院・診療所と連携を取る中で、当院は上越地域の基幹病院として高度急性期医療を担い、地域の最善の質として2次医療圏内での診療の完結を目指しています。 がん診療、小児がん診療、救急医療の機能を充実させ地域の医療連携の拠点病院となるように努力してまいりました。 がん診療においては地域がん診療連携拠点病院として手術はもちろん外来化学療法室における抗がん剤治療、放射線治療に力を入れています。内視鏡センターでは高度な内視鏡検査ならびに内視鏡的治療安全に提供しています。またPET-CT併設の高度の診断検査も充実しています。 救急医療においては年間約5000台の救急車搬送を受けています。救命救急センターでは上越地域の2次救急を担っており、上越地域の患者さんが上越医療圏で診療及び治療を受けることを重視しています。 臨床研修指定病院として研修医への教育を行うとともに、連携する県立看護大学から受け入れる学生実習を充実させ次世代の人材の育成に努めています。 また災害拠点病院としてDMAT派遣や災害時に当院に求められる役割を果たすよう備えています。
厚生連佐渡総合病院	新潟県佐渡市千種161	354	内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、皮膚科、眼科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、形成外科、心臓血管外科、放射線科、放射線治療科、リハビリテーション科、救急科	25	933.0	270.0	57	当院は、昭和10年に診療科6の体制で開院され、幾多の変遷を経て平成30年4月現在、標準診療科25、病床数354を有する佐渡島の中核病院です。長い歴史を持つ当院ですが、多くの方々のご支援をいただいで平成23年11月に現病院へ移転し、医療環境の改善、電子カルテ導入、検査・治療機器の充実、人工透析リハビリの対応数拡大、救急搬入・搬出に即応できるヘリポート設置など、中核病院としての機能を大幅に強化しました。一方で、佐渡は昭和から平成にかけて超高齢社会となり、高齢化にさらしにその速度を増しています。医療連携や介護・福祉事業者、行政が一体となった社会保障体制が急務です。当院では、多施設・多職種との連携においても中心の役割を担うべく院内連携の担い手を数多く確保しています。住民のみならずは見えにくいかもしれませんが、病院としてのチーム力とごまらぬ、院内外との連携力が当院の大きな特徴です。
県立十日町病院	新潟県十日町市高田町三丁目32-9	275	内科、外科、整形外科、小児科、産婦人科、歯科口腔外科、麻酔科	7	403.5	177.5	26.7	新潟県立十日町病院は、十日町市、津南町（越後後援地区）と長野県東市という日本有数の豪雪地における地域中核病院です。24時間365日の救急医療、急性期医療を基盤として、7生命の尊厳、信頼と安心の病院を実現すべく、住民の生活に密着した医療を提供しています。
国立病院機構新潟中央病院	新潟市西区真砂1丁目14番1号	400	呼吸器内科、呼吸器外科、機能脳神経科、てんかん科、神経小児科、脳神経内科、整形外科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科	10	282.8	323.5	39.9	西新潟中央病院は、呼吸器医療と脳神経医療を中心とした専門性の高い医療を行っています。第一に心にかけているのは、病める方々も笑顔になれる患者満足度の高い病院です。 当院は400ベッドを有する「地域医療支援病院」です。 呼吸器医療は、肺がん、アスペクト関連疾患、気胸、喘息、呼吸器感染症（肺炎・結核などの抗がん剤・新型コロナウイルス感染症）、間質性肺疾患、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、呼吸不全、SARS（重症急性呼吸器症候群）などの方々を診療しています。 特に肺がんでは、がん診療連携拠点病院として、手術や薬剤、放射線治療、緩和と在宅医療まで一貫した対応が得意です。 脳神経医療は、てんかん・パーキンソン病やALS（筋萎縮性側索硬化症）などの神経難病、認知症、小児神経疾患、遺伝性疾患、難聴障害、重度心身障害（小児・成人）、脳障害リウマチ、子どもの整形外科といった方々を診療しています。 全国で28施設しかない厚労省認定の「てんかん診療拠点病院」です。患者さんは海外からも訪れます。 新潟エリアの多くの医療機関と協力連携体制にあります。 救急医療では、2つの診療科（内科、小児科）が新潟市の救急センターに参加しています。 訪問看護ステーションは、他の施設では対応が困難な在宅人工呼吸療法の方や、経管で食べたきりの方を支援しています。
厚生連上越総合病院	上越市大道堀田616	313	呼吸器内科、消化器内科、腎・泌尿器内科/透析室、神経内科、循環器内科、小児科、外科、呼吸器外科、脳神経外科、産婦人科、生殖器外科、耳鼻咽喉科、眼科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、放射線治療科、放射線科、麻酔科、総合診療科、病理診断科、歯科/口腔外科、乳癌外科、リハビリテーション科、救急科	25	767.0	249.0	94.8	当院は上越地域（上越市、妙高市）と近隣の糸魚川市、十日町市の一帯を医療圏とする急性期中核病院です。1人1人に対し、地域に開かれ、地域に貢献する病院を理念にかかげ、地域密着型の病院づくりを目指しています。 2015年に卒後臨床研修評価機構（JOEP）の第三者評価を受賞し、臨床研修認定病院に登録、その後の更新訪問審査では4年認定をいただいています。 また、病院全体で研修をバックアップする姿勢が高く評価され、2021年には全国で数少ない「エクセレント賞」を授けられました。 臨床研修のみならず、院内スタッフの人材教育にも力を入れています。 研修の概要 ○研修を受ける側の多様なニーズに配慮し、柔軟性のあるカリキュラムを提供します。 ○指導医との距離が近く、診療科間の垣根が低い組織で働きやすい研修ができます。 ○症例提示や閉鎖的な場を通じてEBMに基づき「診療を指導する」とともに検討し、医学的知識や判断力や形成する姿勢や方法を身につけることができます。

令和5・6年度 臨床教育協力施設情報一覧

①施設名称	②所在地	③病床数	④診療科目・科目数		⑤1日平均		⑥疾患分類 (詳細、別紙参照)	⑦医師数 (医師・歯科医師)	⑧施設の概況・特徴
			診療科目	科目数	外来患者数	入院患者数			
厚生連村上総合病院	新潟県村上市 緑町五丁目8番1号	288	内科、小児科、外科、脳神経外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、歯科、口腔外科、放射線科、リハビリテーション科、透析センター	14	519.0	180.0	https://www.umgh.jp/about/indicators/template_R04.html	38.6	当院は新潟県の最北部、下越地方・村上市に位置する、村上・岩船地域で唯一の総合病院です。この地域は3市村からなり、面積が東京都23区の約2.4倍と非常に広大です。しかしながら、人口は56,700人(村上市、2022年4月1日現在)で、1.5-1.7%/年の減少を続けており、65歳以上が35%を超える、まさに超高齢化社会に直面する日本の最前線にあるといえる地域と言えます。 そんな状況下で「地域唯一の総合病院」である村上総合病院には果たすべき大きな責務があります。 2020年12月1日には新築移転が完了し、老朽化や設備化といった長年の課題を解決しました。屋上には広大な面積の救急医療を担うためヘリポートが設置されました。エントランスのど真ん中には地域医療連携センター「つなごう」が設置され、多職種連携の専門性を活かした医療・介護・福祉サービスをワンストップで効率的かつ効率的に提供するという地域密着型総合病院のコンセプトとなっており、他、重要な業務が学生・研修医教育です。より医療人を育成することにより地域の安全拠点を高め、病院全体を活性化し、地域サービスの向上へとつながります。当院の規模は病床数283床、14診療科と決まっていますが、住民との交流機会を増やすなどして医療・教育の新しい形を常に追求しています。新潟大学からの実習生が一年前の4人から昨年の12人へと数倍の増加したことは、当院の取り組みが身をつづつある結果といえます。
済生会三条病院	新潟県三条市 大野畑6番16号	198	内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、腎臓内科、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、紅門外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、緩和ケア内科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、口腔外科	21	452.7	139.2	https://www.saijinhp.com/indicators/index.html	23	新潟県の中央に位置する三条市にある病院で、1943年に産声を上げました。現在は病床数198床の県央地域の医療の中核を担っている病院となっております。内視鏡治療力を入れた消化器内科をはじめ、高齢化により重要な高次医療の呼吸器内科や腎臓内科などの内科部門、産科や小児科などの乳幼児・小児を担う部門、外科、婦人科、泌尿器科などの外科系の部門、さらに歯科口腔外科、緩和ケア内科、リハビリテーション科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、加えて人間ドックなどを行う検査センターを有しております。 当院では質の高い急性期医療を行うことはもちろんのこと、介護老人保健施設ケアホーム三条、特別養護老人ホーム長和園、済生会三条訪問看護ステーションなどを通じて退院後のケアにも貢献することにより、「医療と福祉の架け橋になる」という目的に対して高い意識を持ちながら活動を行っています。 また、附属保育園たんぽぽ、病児病後児保育園ルーンのはなに加え、2020年には保育サポートセンターひまわりを開設し、児童分野に対しても活動の幅を広げてまいりました。
下越病院	新潟県秋田区 栗山1459番地1	261	内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、神経内科、泌尿器内科、外科、整形外科、形成外科、小児科、婦人科、泌尿器科、皮膚科、リハビリテーション科、リウマチ科、病理科、総合診療科	17	445.7	242.3	https://nigata-min.or.jp/kaetsu/hp/shiyou/kaetsu.shiyou_R04.html	33.4	私たちの病院は、旧新津市(現新潟県秋田区)に1953年に開設された小さな診療所を前身とし、のちの会の会の方々と職員が力を合わせて1978年に80床の病院として建設されました。その後順次拡大を行い、2012年には場所を移転し、現在は261床の地域の中核病院となっています。また、内科診療所、歯科診療所、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、訪問看護ステーション等をグループの中に持つことで、これらと連携した医療、介護、予防活動などを展開しています。 臨床研修指定病院としても指定を受けており、急性期医療、慢性期医療、在宅医療をバランスよく経験することができ、新潟大学や2023年からは新潟県立総合医療センター、古賀徳済済病院、岸和田徳済済病院等との連携が図られており、都市部の高度急性期医療と地域医療を両方経験できるようになりました。院内ではOPC(臨床研修医支援)やJMECC(日本内科学会認定内科学会)のICLS(Immediate Cardiac Life Support)講習の開催や積極的な学会参加を奨励しており、経済的な支援も行っています。外科研修医確保機関であるJCEPも受審、更新認定を受けており、2020年の更新認定では「高齢化が進む我が国の近未来の環境を先取りし、地域に根ざした医療を実現している」との評価をいただきました。 JPH(Health Promoting Hospital)としても健康づくりや権利厚生にも力をいれて取り組んでおり、働きやすい職場づくりを目指しています。
鏡岡市立荘内病院	山形県鏡岡市 赤町4-20	521	内科、精神科、神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、漢方内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、病理科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科	26	750.2	364.6	https://www.shonai-hosp.jp/hospital/indicator/template_R04.html	75	当院は、大正2(1913)年に東・西田川郡の組合立の病院として当地で開院し、令和5年6月で創立110年を迎える歴史と伝統のある病院です。現在、鏡岡市と隣接する三川町、庄内町を主診療圏(人口約14万人)とし、酒田市、遊佐町と新潟県村上市の一部を準診療圏(人口約1万)とする広域医療圏をカバーしています。 平成15年に現在の病院に新築移転し、26診療科、521床を有する急性期病院であり、地域医療支援病院の指定を受けています。山形県地域医療振興センターの指定を受け、ICU、ICU、ICUを擁して高度急性期医療を提供しています。また、地域域診療連携指定病院として、がんの診療成績の向上にも努力しています。さらに、臨床研修指定病院として、毎年基幹型と協定型あわせて10名程度の初期研修医を受け入れています。救急患者数が多いことや多様な疾患の患者に接することから、救急診療が強く、総合的に判断できるバランスの良い研修が毎年多く育っています。
厚生連新潟医療センター	新潟市西区小針3丁目27番11号	399	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、内分・糖尿病内科、腎臓内科、脳神経内科、外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、麻酔科、歯科、小児歯科、歯科口腔外科、救急科	29	551.7	286.0	https://www.nigata-medical.jp/about/indicators/r04.html	56.1	新潟医療センターは新潟市の西区でベッド数399床を持ち、急性期医療を中心に慢性期、在宅医療まで含めた幅広い領域で診療を行っています。地域の要請に対応し、地域医療機関や介護施設のサポート等、医療・介護・福祉の中心として多くの活動を行っています。皆様がたの健康を守り、安心して暮らしていただくために、最新の設備を整え、同時に、職員一同思いやりの心を持って活動しています。私たちは、患者様のお考えを尊重し、少しでも患者様の立場に寄り添って診療、看護を行えるよう医師、看護士を始めすべての医療従事者が教育、研究に取り組んでおります。当院の基本理念である「安全で質の高い医療」、「地域の皆様に満足して頂ける医療」の提供のため職員一同、日々研鑽に努めてまいります。
新潟臨港病院	新潟県新潟市 東区山手町1丁目114番地3	193	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、アレルギー科、リウマチ科、外科、消化器外科、紅門外科、整形外科、リハビリテーション科、眼科、産婦人科、泌尿器科、皮膚科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、神経内科、脳神経外科	21	379.6	150.9	https://nigata-rinkohs.jp/rinko/about/clinical-indicator/dpc_r04/template_R04.html	27	医療法人新潟臨港医療会 新潟臨港病院は昭和26年の法人設立以来、「地域に貢献する病院」の地域の皆様に親しまれる病院、信頼される医療を目指してまいりました。 このたびは新潟臨港医療会は、平成26年9月1日、「社会医療法人」として新潟県知事の認可を受けました。当法人の東部、北蒲原の山間地域における救急医療支援の責務が認められ、新潟県では法人入りの認可となりました。 社会医療法人は数ある医療法人の中でも特に公共性の高い法人とされています。公益となる「地域への貢献」が当院の理念であり、また社会医療法人としての使命であることについて、職員一同、決意を新たにしています。
魚沼基幹病院	新潟県魚沼市 南魚沼市浦佐4132番地	454	総合診療科、循環器内科、内分・代謝内科、血液内科、腎臓内科、リウマチ・膠原病科、呼吸器・感染症内科、消化器内科、脳神経内科、精神科、小児科、消化器外科、一般外科、乳腺・内分泌外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、形成外科(※)、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科、放射線科、放射線診断科、病理科、救急科、リハビリテーション科、矯正歯科、歯科口腔外科、病理診断科 ※現在診療を行っておりません	31	832.7	259.8	https://www.uonuma-kan-hospital.jp/doc/shiyou/2023/index.html	92	「魚沼」は、既に西暦702年・大賀2年に書かれた日本書紀に、魚沼郡の存在を規定させる記述があり、これ以前からすでに魚沼郡があったと思われる、長い歴史をもつ地域です。 この地域に、真に住民の健康に貢献できる医療体制を構築したいという、長年にわたる関係者の熱い思いが実を結び、平成27年6月に県立魚沼基幹病院(指定管理者:新潟県地域医療推進機構)が開院しました。 魚沼基幹病院は高度専門医療・急性期医療・救急医療を担い、直から市に移管した新生の魚沼市立小出病院、南魚沼市立南魚沼市民病院、既存の南魚沼市立ゆきぐに大和病院、湯沢市立湯沢病院(湯沢市保健医療センター)などの医療機関、さらに私立病院、診療所が後方施設としてサポートに当たります。同時に、中魚沼の県立十日町病院、県立松代病院、津南町立津南病院をはじめとする医療施設群と連携・相互支援を行っています。 魚沼基幹病院は、専門医療を提供出来る病院を目指すことは当然ですが、同時に地域医療に貢献できる総合診療科、総合診療の知識、技術、使命感を持った各領域の専門医を養成する教育目標を持っています。新潟県の地域医療振興により、新潟大学医学部総合病院新潟県立地域医療教育センター(後診療科)に研修、救急科、緩和科などを配置し、研修医の確保とともに地域医療を担う医師を育成する体制の整備し、さらに、若い看護士をはじめ、専門医スタッフの知識技術の向上を支援する教育研修体制も整備し、「医療人」の育成に向けた教育・研修機能の強化を目指します。
県立精神医療センター	新潟県長岡市 青2-4-1	400	精神科・児童精神科・内科・歯科	4	91.9	123.0	未公表	10.3	当院は新潟県における精神科医療の中核的な役割と担い手として信頼される医療の実現を目指しています。人権を尊重し、患者さん本位の精神科医療の提供を常に配慮しながら、新潟県内唯一の公立精神科病院として、救急、急性期精神科医療及び児童・青年期精神科医療を当院が担うべき大きな役割と位置づけ、その機能の充実を図っています。 入院医療中心の精神医療から地域生活を支えるための精神医療への転換を目指すという国の指針が示され、精神科医療を取り巻く状況も変化を余儀なくされています。そうした中で、当院は県内精神科医療機関や関連機関の協力を得て連携を図りながら、院内の多職種からなるチーム体制により、患者さんの社会復帰、地域移行支援の促進を行っています。そして精神科基幹病院として、他の病院では対応が難しい重症の入院患者さんへの対応が出来るような臨床機能の確立を目指します。 また、精神科医療における医療、教育、研究の面において、当院はその役割を果たしています。2015年6月1日、新潟大学大学院医学部総合研究科に設置された新潟大学地域精神医療学専攻附属施設にサテライト・オフィスを置き、当院を中心にその活動が行われます。今後新潟県の精神科医療に関する臨床、教育、研究での成果が期待され、その協力の下、当院において良質な医療の提供や研究、専門医などの人材育成を図り、精神科医療への貢献を目指します。

令和5・6年度 臨床教育協力施設情報一覧

①施設名称	②所在地	③病床数	④診療科目・科目数		⑤1日平均		⑥医療分類 (詳細、別紙参照)	⑦医師数 (医師・歯科医師)	⑧施設の概要・特徴
			診療科目	科目数	外来患者数	入院患者数			
木戸病院	新潟県東区竹尾4丁目13番3号	312	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腫瘍内科、内分泌内科、腎臓内科、神経内科、外科、消化器外科、整形外科、アレルギー科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、緩和ケア科、放射線科、歯科、小児歯科、歯科口腔外科、高齢科	25	541.7	216.8	https://kido.ryo-coop.com/publicise/dp-2022.html	38.4	木戸病院は、昭和51年5月に東区上木戸に88床の病院として開設しました。その後、平成23年7月、現在の東区竹尾に新築移転し、現在は312床の総合病院として運営しています。 日本は現在、超高齢化社会になりつつあり、より高度で体への負担が少ない安全な医療、地域や生活に根ざした医療が求められます。高齢化の実態に合わせた医療提供体制を整備するために、地域の病院・クリニック・施設の方々と連携をとりながら、患者さん一人一人に包括的な診療を行える体制に努力してまいります。 高齢化・人口減少に伴い医療需要が厳しくなっていくことが予想されます。地域住民の皆さんに、質の高い医療を継続的に提供する為には、病院内の職場環境の改善が必要です。働きやすい職場環境を作り、多くの優秀な医療従事者に、木戸病院で長く勤務していただく事が、人に優しい良い医療の提供の事に繋がると考えています。
厚生連糸魚川総合病院	糸魚川市大字竹ヶ花457番地1	261	内科、小児科、外科、脳神経外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、精神科、高齢科、歯科、放射線科、心臓血管外科、呼吸器外科、リハビリテーション科、循環器内科、消化器内科、消化器外科、救急科	21	581.0	200.0	https://www.itoigawa-hp.jp/about/indicators/shiyo2022.html	41.5	糸魚川総合病院は昭和13年から糸魚川市西頭地域の基幹病院として役割をはたしてきましたが、診療機能と救急活動の充実による予防から治療までの一貫した医療サービスと迅速な環境作りをめざし、平成3年12月に移転新築しました。 さらに、平成5年4月に老人保健施設を併設し、高齢化社会に対応した総合医療提供体制を実現することができました。
あがの市民病院	新潟県阿賀野市岡山町13番23号	210	内科、神経内科、小児科、外科、心臓血管外科、整形外科、脳神経外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、精神科、高齢科、歯科口腔外科、放射線科、リハビリテーション科	16	415.2	122.6	未公表	30.8	当院は、昭和29年に水原町国保直営病院として発足し、平成27年に新病院の「あがの市民病院」として開院しました。病院周囲には、白鳥で有名な阿賀野、五頭山など自然豊かで、出湯・杉・今風の五頭温泉郷があります。 当院は、地域医療の向上に努める阿賀野市の中核病院として「地域住民のいのちを守り、人と人とのふれあいを大切に、診療から暮らしまで、信頼され、安心される病院を目指す」を合言葉に運営しています。患者さん一人一人が患者さまの心を常に考え、医療安全と院内感染対策を徹底させ、提供する診療レベルを向上させることに努めます。当院は、198ベッド、16診療科の総合病院で、急性期から回復期、慢性期、在宅医療に至るまで対応しています。加えて人間ドックも行っています。
厚生連柏崎総合医療センター	新潟県柏崎市北半田2丁目11番2号	400	内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、血液内科、腎臓内科、内分泌・代謝内科、神経内科、小児科、外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、精神科、高齢科、歯科、歯科口腔外科、リハビリテーション科 特殊外来 中高年・更年期・外来（産婦人科にて）、思春期外来（産婦人科にて）、経腹（いびき）外来（心臓血管科にて）	24	695.8	255.5	https://www.kashihazaki-hpms.jp/hospital-indicators/r3/	51.3	当院は病床数400床（うち回復期リハビリ病棟45床、地域包括ケア病棟47床）を有し、柏崎市および刈羽村を中心とした地域の約10万人を診療圏とする地域基幹病院です。 少子高齢化が著しく叫ばれていますが、抜本的な解決策はなく、地方都市での人口減少による諸問題はさらに深刻化を遂げています。医療に關しては、人口が減少したとはいえ、柏崎・刈羽地域の広範囲の医療圏を担っている当院へ求められるものは大きく、救急医療を含めた現在の診療機能は堅持する必要があると考えております。さらに超高齢化社会への移行により、幅広い医療も求められております。この点においては他施設との連携を促進し、急性期・亜急性期の患者様への対応に支援が無いようしていきたいと考えています。 当院の救急医療も中心となって変え（年間約2,500名の救急搬送）、ほとんどの疾病治療に対応しています。そしてそのいずれもが最先端の医療です。スタッフや設備の問題で、高度の医療は高度医療機関にお任せしなければならませんが、日常の診療・治療に関しては最新の医療行為です。
長野赤十字病院	長野県長野市若里五丁目22番1号	680	内科、血液内科、腫瘍内科、呼吸器内科、感染症内科、腎臓内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、腫瘍病・内分泌内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、心臓血管外科、脳神経外科、アレルギー科、小児外科、小児科、産婦人科、耳鼻咽喉科、形成外科、眼科、整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科、皮膚科、泌尿器科、精神科、放射線診断科、放射線治療科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科、臨床検査科	38	1,499.0	629.0	http://www.nagano-medical.jp/information/hospital/index/data/is-r3.html	190	「人道・博愛・奉仕の赤十字精神」のこころ、患者さん中心で質の高い医療を実現するという病院の理念を基に、各医療機関の皆様の連携を深め、地域医療支援病院として更にその機能を充実するよう努めてまいります。 病院の理念のもと、①地域医療支援病院としての役割、②基幹・地域災害拠点病院、③次世代医療人の育成、を当院の使命としています。 地域医療支援病院では救急医療、がん診療、産産期母子医療が三つの柱です。 災害医療では、長野県唯一の基幹災害拠点病院に指定されており、DMAT隊と救護班の編成を行い、救護物資の備蓄と配分などの体制を常に備えています。 人材育成はきわめて重要な病院の使命と考えています。基幹型医師・歯科臨床研修病院として、更には医学士・看護士の学生も多数受け入れています。現在までに231名が当院で医師初期臨床研修を修了致しました。
水戸済生会総合病院	茨城県水戸市双葉台3丁目3番10号	432	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、血液内科、腎臓内科、内分泌内科、脳神経内科、小児科、外科、乳腺外科、消化器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、リウマチ科、皮膚科、リハビリテーション科、救急科、ペインクリニック内科、病理診断科	29	816.8	269.7	https://www.unitor-saiseikai.jp/dpc/template_R04/template_R04.html	121	当院は昭和18年6月30日に水戸市八幡町において済生会茨城診療所として開設されてから80年、水戸済生会総合病院に名称を変更したのち双葉台に移転してから39年となりました。 茨城県立こども病院とは地下鉄まで中央には県の総合周産期母子医療センターがあり、産科、産科科が24時間当番体制を敷き、三次救急医療を行っています。また、県央・県北の高度急性期を担う病院として、茨城県のドクターヘリ、水戸市のドクターカーを有し、三次救急を担い、救命救急センターでは多発外傷やECMOが必要な重症患者などを中心に治療しています。 新型コロナウイルス感染症に対しても、公的病院である当院では重症患者を中心に入院を受け入れ、重点病院として積極的に検査、治療を行っています。 高度急性期病院としての機能を高めるため、本館2階において院内工事を完了済みですがこの度完成し、令和5年2月1日から新しいICUとして運用開始しております。これに伴ってこれまでのICUは救命救急病棟（EICU）として活用して参ります。
済生会川口総合病院	埼玉県川口市西川口5-11-5	424	内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、腎臓内科、腫瘍病・内分泌内科、神経内科、腫瘍内科、外科、整形外科、消化器外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、リハビリテーション科、救急科、ペインクリニック内科、病理診断科、臨床検査科、心臓外科	26	1,079.0	316.3	https://www.saiseikai.gr.jp/dpc/template_R04.html	123	済生会川口総合病院は埼玉県南部にあり、東京からは荒川をはさみ川口市に位置しており社会福祉法人恩賜財団済生会に所属する病院です。 当院は現在424床の病床と専門学会から指導施設としての認定を受けている総合病院で、従業員数は、常勤、非常勤をあわせて約1,177名を抱える病院です。手術室は7室、ICU14床、NICU6床、CU6床に加え放射線部門ではPET・CT・MRI・DSA・Rなど最新の医療機器を導入し、救急車搬送数は年に5,000台、手術は年に4,900件をこなす、臨床研修病院・救急指定医療機関・災害拠点病院・地域がん診療連携拠点病院・地域周産期母子医療センター・地域医療支援病院などの認定を受けて、まさに人口60万の川口市、隣接する戸田・蕨を含めて80万人の地域の医療を担う急性期の中核病院です。
県立リウマチセンター	新潟県新潟市本町1丁目2番8号	100	リウマチ科、リハビリテーション科	2	102.3	66.1		9.4	リウマチの専門病院（リウマチセンター）を総合病院（新潟県病院）に併設することにより、人材面、施設、設備面での連携を図り、広い分野での集学的医療提供体制を充実し、合併症や高度な手術に対応します。 患者さんや関連医療機関への情報センター機能として、リウマチに関する情報の集積、分析、発信体制を整備します。 リウマチの治療と臨床研究を行うセンター機能を充実確保します。
県立新潟県中央総合病院	新潟県新潟市佐渡63番地	300	内科、循環器内科、神経内科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、産科、消化器外科	14	386.9	157.8	http://www.toh.jp/shi-hyo/template_R04.htm	36	2024年3月1日開院予定の済生会新潟県中央総合病院で実習いただきます。県央総合病院は、県央地域の公立・公営5病院の急性期機能を集約し、整備するものです。さらに近隣の病院、診療所、応急診療所さらには介護・福祉との連携を目的とした、新たな医療提供体制づくりのスタートを切ったばかりの新病院です。 県央総合病院の開院に向け、集まった経験豊かな指導医や医療スタッフとともに豊富なcommon diseaseを数多く診療し、指導医からのフィードバックを受けることで経験を蓄え、新たな病院とともに成長していきます！ 新たに開院する済生会新潟県中央総合病院で、ぜひ新しい実習を経験しませんか？病院スタッフ一同でお待ちしております。

※ ②、③、④、⑥、⑧は各病院HP公表情報から引用。

※ ⑤、⑦は「いがた医療情報ネット（<https://qq.niigata-iyaku.jp/qq15/qqport/kenmintop>）」等から引用。

臨床実習概要